

# 加藤内科広報新聞 12月号



寒さも一段と厳しくなってきましたが、  
いかがお過ごしでしょうか。  
風邪やインフルエンザ等には  
十分お気を付けてお過ごし下さい。



前回の広報新聞で「**血圧サージ**」についてお伝えさせていただきました。  
血圧サージによって起こりやすくなるのが「**脳卒中**」や「**心筋梗塞**」です。  
今回は、その「**脳卒中**」について書かせて頂きます。

## \*脳卒中とは？

脳卒中は一般的な用語であり、医学的用語ではありません。正式には「**脳血管障害**」と言います。  
脳血管障害（脳卒中）は、脳の病気をまとめていう総称で、  
代表的なものとしては 脳梗塞・脳出血・くも膜下出血 などがあります。

### ・脳梗塞とは…

脳の血管が、動脈硬化などによって血流が途絶え、血管が詰まり、脳の組織が機能しなくなること。

### ・脳出血とは…

脳の中の細い血管が、高血圧や加齢によって小さなこぶができ、血圧が急に上昇した時などに破裂して、脳の中に血腫ができること。

### ・くも膜下出血とは…

脳の表面の太い血管が破裂して、脳を包んでいる膜の間に出血が起こること。

脳卒中の中で1番多いのが「**脳梗塞**」であり、7割を占めていると言われています。

## \*原因は？

高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満といった生活習慣病や喫煙。

→脳梗塞の元となる動脈硬化を促進します。

また、長年高血圧が続くと、脳内の細い動脈に絶えず高い圧力がかかるため、  
だんだんと血管がもろくなり破れやすくなります。

心房細動・リウマチ性心臓病（弁膜症）・心筋梗塞・心筋症といった心臓病。

→心臓に血栓が出来やすく、それが脳に飛び脳梗塞を引き起こしやすくなります。



## \*症状は？

### • 脳梗塞の場合…

身体の片側がうまく動かない・思うように話せない・見え方がおかしいなどです。  
上記の症状が現れたあと、数分から数十分ほどで自然に症状が消えてしまいます。  
場合によっては、症状が1時間以上続く場合もありますが、  
長くても24時間以内に消えてしまいます。

これを一過性脳虚血発作(TIA)といいます。血栓が脳の血管に詰まってしまったものの、  
短時間のうちに血栓が溶けて血流が再開するために症状が消えるのです。

一過性脳虚血発作(TIA)は、脳梗塞の前兆ではありますが、症状が消えたからといって  
油断してはいけません。そのまま放置すると、脳梗塞を発症してしまう可能性があります。

### • 脳出血の場合…

頭痛やおう吐です。

出血の部位によって異なりますが、多くは片麻痺・感覚障害を伴い、  
重症だと意識障害を起こします。意識障害を伴う脳出血は、危険と言われています。

### • くも膜下出血の場合…

猛烈な頭痛と吐き気・嘔吐を伴い、多くはそのまま意識を失ってしまいます。

出血が軽い場合、意識は回復しますが、出血量が多い時や脳内に破れ込んだ場合は、  
生命の危険があります。1回目の発作は軽くても、

その日のうちに再び破れることが多いので注意が必要です。

## \*予防法は？

### 1. 一番危険なのが高血圧です。

まずは自分の血圧を知り、高いかな？と思う場合は医療機関を受診し、医師に相談しましょう。  
高血圧・脂質異常症・糖尿病・心臓病などをお持ちの方は、放置せずに必ず継続治療しましょう。  
動脈硬化を引き起こしやすい脂っこい食べ物などを控え、生活習慣を見直しましょう。  
健康診断など、定期的に検査を受けましょう。

脳卒中の治療は、早ければ早いほど効果があります。  
ためらわずに救急車を呼ぶなどして、医療機関を受診して下さい。



突然手足が動かない

呂律が回らず話しづらくなった

意識が悪い

顔が歪んでいる気がする

1つでも症状が現れると要注意です。



「寝れば治る」と朝まで様子を見てしまうケースが多くありますが、  
一刻も早く医療機関を受診し、適切な診断と治療を受けましょう。

